

『天草版平家物語』に見る名詞類の形態統語的特徴

黒木 邦彦

記号一覧

- -: 接辞 (= 附属形式) の境界
- =: 接語 (= 附属語) の境界
- +: 複合語中の語の境界
- #: 語/句の境界
- [: 語/句/節の両端
- ////: 基底形

略号一覧

- A: 形容詞
- ADN: 連体詞
- ADNC: 連体詞節
- ADNP: 連体詞句
- ADVC: 副詞節
- COPP: 繫辞動詞句
- N: 名詞
- NC: 名詞節
- NP: 名詞句
- V: 動詞
- <ACC>: 対格
- <ADJN>: 付加語
- <NOM>: 主格
- <OBL>: 斜格

1 はじめに

本発表では、『天草版平家物語』の名詞類の形態統語的特徴を明らかにする。

中世日本語 (= 中世京都方言?) の概説書としては湯沢 (1929) が著名で、今もなおこの本に学ぶことは多い。ただし、この本は 80 年以上も前に刊行されたものであるから、現在の研究水準からすると、形態論および統語論が貧弱である。そこで、発表者は、Leech et al. (1982), 下地 (2006), Shimoji (2008) などを手本にして (下地 2011 も参照):

- (1) 形態論
 - a. 語 (学校文法の“単語”とは異なる) の分類 (名詞, 動詞, 形容詞, 副詞, 連体詞 etc.)
 - b. 各語類の形態論
 - c. 語形成の方法
- (2) 統語論
 - a. 文の構造
 - b. 句の分類
 - c. 節の分類
 - d. 格
 - e. 語順

という構成の中世日本語の文法書を編纂しようとするに至った。本発表はその端緒として位置付けられる。

2 名詞類

2.1 名詞の形態統語的特徴

(3) 名詞 (Noun) の構造

- a. 名詞語幹名詞 = [{{名詞派生接頭辞-}名詞語幹{-名詞派生接尾辞}}]_N: ● 寺 =お (004.07) ● お-庭=え (009.16) ● 公家-たち=が (004.17) ● 住国-がち=に=あった (006.05) ● 身-ども-ら=わ (010.20)
- b. 動詞語幹名詞 = [{{名詞派生接頭辞-}動詞語幹-名詞語幹化動詞派生接尾辞{-名詞派生接尾辞}}]_N: ● 驕り//ogor-i//=お (003.13) ● おん-答え-Ø=お (397.02)
- c. 形容詞語幹名詞 = [{{名詞派生接頭辞-}形容詞語幹{-名詞派生接尾辞}}]_N: ● おん-恋し=や (290.08) ((3a, b) に比べると, 生産性が低い)

(4) 名詞の用法

- a. 補語 (Complement)¹ として: ● 公家たち<NOM> 拍子=お<ACC> 変えて (007.04-05) ● 馬=に<OBL> 鞍<ACC> 置かせよ. (043.08)
- b. 付加語 (Adjunct)² として: ● 今宵<ADJN> 各々 闇打ち=に 召さ
りよう. (005.17-18) ● たびたび<ADJN> 呼び返された. (063.19)
- c. 複合語 (Compound word) の構成要素として (cf. (5))
- d. 種々の句 (Phrase) の基幹 (Base) として (cf. (8))

2.2 名詞を含む複合語

(5) 名詞を含む複合語

- a. 複合名詞 (Compound noun) = [名詞+名詞]_N: ● 日+頃=の (027.11-12) ● 昇+殿=お (004.15) ● 闇+討ち=に (004.18-19) ● 世+盛^{さか}り=の=ほど (011.22) ● 焼き+印=お (293.19) ● 軽+業=が (346.11) ● 着+背+長=お (043.13)
- b. 複合動詞 (Compound verb) = [名詞+動詞³]_V
 1. [漢語名詞+軽動詞]_V: ● ちつとも 色=も 変+ぜず (026.03) ● かよ一=に 尾籠=お 現+じて (017.22)
 2. [名詞語幹名詞+動詞]_V: ● 太刀=お 脇+挟^{はそ}一で (005.11-12) ● 三つ=の=こと=お 心+得られいで (148.07)⁴

¹ 述語の項 (Argument; cf. Grimshaw 1990, 影山 1993: §1.4, 2.1) を示す語。

² 述語の項以外を示す語。

³ 動詞 = [動詞語幹-動詞屈折接尾辞]_V

⁴ これに対し, 複合名詞 [名詞語幹名詞+動詞語幹名詞]_N は生産的である。

<1> ● 闇+討ち=に (004.18) ● 島+伝い=に (077.19)

- c. 複合形容詞 (Compound adjective) = [名詞+形容詞⁵]_A: ● それ=も 今=わ
詮+ない. (232.09-10) ● [後世=お 弔い参らしょうずる]=人=も ご
座+なければ (091.20-21)
- (6) a. [かの=堂寺=お 宣旨=の=ごとく 造畢 せられた]=に=よって
(004.11-12)
- b. 帝王 [明石表=わ 何=と ある=ぞ]=と おん尋ね なされたれば
(010.02-04)
- (7) a. いたづら=な=こと=お 公家たち=わ せられた=の? (006.20-21)
- b. とみ=に 返事=も せられいで (038.22)

(6) の下線部が [名詞+動詞]_V であるか [名詞]_N#[動詞]_V であるかは、この例を見るだけでは判断できない。(7) を踏まえると、(6) の下線部も [名詞]_N#[動詞]_V と解釈するのが妥当に思われる。

2.3 名詞基幹句

- (8) 名詞基幹句⁶
- a. 名詞句 (Noun phrase)⁷ = [連体詞=名詞]_{NP} or [名詞=準体助詞]_{NP} or [連体詞=名詞=準体助詞]_{NP}: ● [ある=人]_{NP}=に (006.13) ● [西国=え]_{NP}=の=門
出 (229.14-15) ● [[親=の]=名=まで]_{NP}=お (250.11)
- b. 連体詞句 (Adnominal phrase) = [名詞=属格助詞]_{ADNP} (= cf. (13b)): ● [武士=の]_{ADNP}=家 (004.21) ● [三十三間=の]_{ADNP}=堂
- c. 繫辞動詞句 (Copula verb phrase) = [名詞=繫辞動詞{=種々の助詞}]_{COPP}:
● [((...)) もっとも [神妙=な]_{COP}=こと (009.15) ● 平家=の=悪
行=わ [[かからぬ=こと]_{NP}=ぢや=の]_{COPP}? (018.11-12) ● 全く [[そ
の=儀]_{NP}=で]_{COPP}=わ=ご座ない. (032.07)

なお、[名告った]_V (262.22) などは、一見すると、複合動詞 (= [名+告った]_V) として分析できそうである。ただし、『天草版平家』の時代には、動詞語幹 nor-‘告(る)’ の例が見当たらないので、単純動詞 (= [名告った]_V) として分析するのが妥当である。

⁵ 形容詞 = [形容詞語幹-形容詞屈折接尾辞]_A

⁶ 「一詞基幹句」は「一詞を基幹とする句」を意味する。

⁷ 「一詞句/節」は「統語的に一詞に相当する句/節」を意味する。

2.4 名詞節

2.4.1 名詞節の形態統語的特徴

- (9) 名詞節 (Noun clause) = [... 準体形用言⁸]_{NC}
- (10) 名詞節の用法
- a. 補語として: ● [その=折節=に 但馬=の=国=が 空いた]_{NC}=お_{<ACC>} 即ち 下されてござった. (004.12-14) ● [遠-い]_{NC}=お=ば 弓=で 射 [近-い]_{NC}=お=ば 太刀=で 切り (209.21-22)
 - b. 付加語として (副詞節に相当?): ● [伊勢=の=国=に 住国がち=に=あつた]_{NC}=によって_{<ADJN>} 伊勢平氏=と 申された. (006.4-6)
 - c. 名詞句の基幹として
 1. 名詞句の基幹として: ● [[鞘巻き=の]_{ADNP}=[黒う 塗った]_{NC}]=に (009.08-09)
 2. 連体詞句の基幹として: ● [[吹く=風=の 草木=お 靡かす]_{NC}=が]=ごとく (011.07)
 3. 繫辞動詞句の基幹として: ● あわれ これ=わ [[言一=甲斐ない=我ら=が 念仏 して=いる=お 妨ぎよう]=とて 魔縁=の 来たる]_{NC}=で=こそ=ある=ろ一. (104.06-08) ● 人=で=わ=の一て [[鹿=の おそしげ=な]=が 二つ 連れて 檜=の=葉=お 踏み鳴らいて 過ぐる]_{NC}=で=あつた. (373.21-23)

名詞とは異なり, 名詞節が複合語の構成要素になることはない (cf. (4)).

2.4.2 名詞節の意味

- (11) a. モノ: [清盛=の=謀りごと=に 十四五六=の=童=お 三百人 揃えて 髪=お 禿ろ=に 切り回し 赤い=直垂=お 着せて 使われた]_{NC}=が_{<NOM>} 京中=に 満ち満ちて ^{おうへん} 往反つかまつた. (011.24-012.03)
- b. コト: [忠盛 ... 伊勢の国=に 住国がち=に=あつた]_{NC}=によって その=国=の=器物=に 言寄せて 伊勢平瓶=と 申された. (006.03-06)
- c. 時間: [六月一日=の]_{ADNP}=[まだ 暗かった]_{NC}=に 清盛 [資成=と ゆ一]=者=お ^よ 呼一で (022.24-023.01)

2.4.3 主格補語内在名詞節

- (12) a. ある=時 また [忠盛_{<NOM>} 備前=の=国=から 都=え 上られて=ご

⁸ [動詞語幹-(r)u]_{VOR} [形容詞語幹-i]_A or [名詞={ na / dja }]_{COPP}

ざった]NC=に 帝王 [明石表=わ 何=と ある=ぞ]=と おん尋ねなされたれば (010.01-04)

- b. [お供=の=者ども=が<NOM> 今日=お 晴れ=と 出立った]NC=お あそこ=に 追っ駆け ここ=に 追っ詰め 馬=より 引き落とし 散々=に 打ち叩いて 一々 髻=お 切った (017.01-04)

3 連体詞類

連体修飾語として名詞句の構成要素になる語を“連体詞”と呼ぶ。

- (13) a. 連体詞 = [連体詞語幹]_{ADN}=: • [この _{ADN}=一門 _N=で=ない]=人=わ (011.14); その _{ADN}=折節 _N=に (004.12-13); かの _{ADN}=清盛 _N=の=ご一家 (011.10)⁹
- b. 連体詞句 = [名詞=属格助詞]_{ADNP}= or [[... -(i)Te形動詞]=属格助詞]_{ADNP}=: • [[俱利伽羅=で]=の]_{ADNP}=合戦_N (411.06) • [[拙者=が 存じて]=の]_{ADNP}=儀_N=で=わ=ごさない (008.17-18)
- c. 連体詞節 = [... 連体形用言¹⁰]_{ADNC}=: • [横たえて 差された]_{ADNC}=かの _{ADN}=刀 _N=お (006.11-12)

(13) から分かるように、連体詞は名詞ないし連体詞に前接する。ただし、次のように解釈すれば、連体詞が前接する語類は名詞に限定できる。

- (14) a. [[横たえて 差された]_{ADNC}=[かの _{ADN}=刀 _N]_{NP}]_{NP}=お (006.11-12)

4 名詞に後接する助詞

- (15) [名詞=準体助詞]_{NP}=格助詞=副助詞/係助詞
- a. 準体助詞: • [[西国=え]_{NP}=の]=門出 (229.14-15) • [[俱利伽羅=で]_{NP}=の]=合戦 (411.06) • 君=と [臣=と]_{NP}=お (047.03) • [[都=から]_{NP}=の]=ご定 (202.22) • [逢瀬=まで]_{NP}=お=も (314.15) • [[都=の]=こと=のみ]_{NP}=が (087.01) • [静=ばかり]_{NP}=お (381.07) (=to以下は用言に

⁹ 次のように、現代本土地方言では、連体詞と名詞の間に付加語を挟むことができる。したがって、現代本土地方言の連体詞は、『天草版平家』のそれよりも自立性が高い。

- <2> a. この_{ADN} 多分_{<ADJN>} [右=に]_{NP} あった=と 思う。
b. 誕生日=わ [1980年=の]_{ADNP} 確か_{<ADJN>} 4月26日_N=じゃない?

次のように、連体詞の直後でも名詞のアクセントの別は保たれることから、連体詞の自立性は音韻的にも認められる。

- <3> a. お]一きな かぶお ‘大きな蕪を’
b. お]一きな か]ぶお ‘大きな Cub (単車) を’ (いずれも東京方言)

¹⁰ 注8に同じ。

も後接¹¹⁾)

- b. 格助詞: ● [[都=の]=こと=のみ]_{NP}=が (087.01) ● 名=お=のみ (173.19)
● [百騎=ばかり]_{NP}=に (245.04) ● [[牛=の=刻=ばかり]_{NP}=の]_{ADNP}=ご定
(202.22) ● [忠盛=が]_{ADNP}=咎 (009.17)
- c. 副助詞: ● 大將=に=まで (052.20) ● 名=お=のみ (173.19) ● 水=お=さ
え=も (407.08) ● 院宣=お=だに (146.13) (cf. *=sura, *=sika)
- d. 係助詞: ● 小松殿=に=わ ● 法名=お=ば//=o=wa// (011.03) ● 装
束=お=さえ=も (029.15) ● [ご辺=の]=こと=お=こそ (041.06)
● 馬=に=ぞ (154.21)

5 格

5.1 属格

連体詞句を作るために、名詞ないし -(i)Te 形動詞に後接させる属格助詞は、基本的には =no である。

(16) a. [十四五六=の]_{ADNP}=童=お (011.24)

b. [[世=お 恨みて]=の]_{ADNP}=こと=なれば (106.23)

ただし、話し手自身ないし目下の人物を指す名詞には、=ga を後接させる。

(17) a. [忠盛→帝] [忠盛=が]_{ADNP}=咎=で=わ=ない=ぞ. (009.17-18)

b. [清盛→西光] [[おのれ=が]_{ADNP}=よ=一=な=下藤=の=果て=お (025.19-20)

c. [清盛→重俊ら] [しやつ=が]_{ADNP}=首 左右 の一 切るな. (027.02)

(18) a. 自称の watakusi: [家貞→番衆] [私=が]_{ADNP}=相伝=の=主殿忠盛=お
(005.16-17)

b. ‘私事’を意味する watakusi: 成親卿=わ [私=の]_{ADNP}=宿意=お しばら
く=わ 止どめられて=ござった. (020.17-19)

¹¹ 次に例を挙げる。

<4> a. [[... 備前=の=児島=え 流せ=と]_{NC}=の]_{ADNP}=使い=で=あった. (055.13-14)

b. [猫間殿=が 帰られて=から]_{NC?} 木曾=も 出仕=お しょう=と 言一て 出立
た=が (207.08-09)

c. [衣装=お 剥ぎ取る=まで]_{NC}=の=こと=わ なかった=もの=お. (219.08)

d. [[命 生きて] お上りある=のみ]_{NC}=ならず (322.04-05)

e. [直衣=の 袖=も 絞る=ばかり]_{NC}=に 涙お 流し (048.21)

なお、名詞にも用言にも後接する =jori も準体助詞だろうが、[名詞=jori]_{NP} の確例 (= [名詞=jori=格助詞] の例) を見ない。

<5> a. 車=より 降り (043.23)

b. [清盛 家督=お 受け取られて=より]_{NC?} [右=に 申した]=ごとく [威勢 位=も
肩=お 並ぶる]=人=も ござなかった. (010.22-24)

5.2 主格

5.2.1 主格助詞 =gaの有/無

- (19) a. 主節: 皆人=が<NOM> 堪えて=いた=よ=の? (007.25)
b. 副詞節: [その=人=が<NOM> 右=の=ごとく=に 御前=に=おいて 舞われたれば]_{ADVC} それ=も また 公家たち 拍子=お 変えて(007.03-04)
c. 連体詞節: [平家=の=由来=が<NOM> 聞きたい]_{ADNC}=ほど=に (003.09-10)
d. 名詞節
1. 補語名詞節: [その=折節=に 但馬=の=国=が<NOM> 空いた]_{NC}=お<ACC> 即ち 下されて=ござった. (004.12-14)
2. 付加語名詞節: [[宮=の=おん方=え 常に 参り通う]=人=が<NOM> なかった]_{NC}=に=よって<ADJN> (136.16-17)
- (20) a. 主節: 見る者ども<NOM> 黒帥=と 異名=お 付けて=ござる. (007.02)
b. 副詞節: [帝王<NOM> [明石表=わ 何=と ある=ぞ]=と おん尋ねなされたれば]_{ADVC} その=おん返事=に=わ [...]=と 申し上げらるれば 帝王 御感なされて=ござった. (010.01-04)
c. 連体詞節: [... 忠盛 三十六=の=年 初めて 昇殿 致された]_{ADNC}=と ころ=で (004.15-17)
d. 名詞節
1. 補語名詞節: ある=時 また [忠盛<NOM> 備前=の=国=から 都=え 上られて=ござった]_{NC}=に<OBL> 帝王<NOM> [明石表=わ 何=と ある=ぞ]=と おん尋ねなされたれば (010.01-04)
2. 付加語名詞節: [[鳥羽=の=院<NOM> なほ 御感=の=余り=に 内=の=昇殿=お 許された]_{NC}=に=よって<ADJN> 忠盛 三十六=の=年 初めて 昇殿 致された]=と ころ=で (004.14-17)

5.2.2 主格助詞 =no

連体詞節および名詞節では、主格助詞として =gaの代わりに =noを用いること (三上1953で言うところの“ガノ可変”)がある¹²

- (21) a. 皆人=も [忠盛=の<NOM> 面目=お 失われた]_{ADNC}=時=わ 気遣い=お 致された. (007.20-22)

¹² 次の例の =no は、主格助詞とも属格助詞とも解釈できる。したがって、このような例を以って、主格助詞 =no が存在するとは言えない。

- <6> 驕り=お 極めた 人々=の 果てた 様態 (003.15-16)
a. [[... 驕り=お 極めた]=人々]_{NP}=の<NOM> 果てた]_{ADNC}=様態
b. [[... 驕り=お 極めた]=人々=の]_{ADNP}=[果てた=様態]_{NP}

- b. [[横たえて 差された]=かの=刀=お 紫宸殿=の=後ろ=で 皆人=の
 <NOM> 見る]NC=に ある=人=に 預けおいて 出られてござった.(006.11-13)
- c. [これほど=に [人目=の 稀=な]=ところ=に 何=たる=人=の<NOM> 来
 る]NC=か. (373.18-19)

次の例から、副詞節でも主格助詞 =no を用いることが分かる。

- (22) おのれ=が=よ一=な=下臈=の=果て=お 君=の 召し使われて なさるま
 じ=官職=お 下され 父子共=に 過分=の=振る舞い=お する=と 見
 た=に 違わず (025.19-22)
- a. [おのれ=が=よ一=な=下臈=の=果て=お 君=の<NOM> 召し使われ
 て]ADVC
- b. [おのれ=が=よ一=な=下臈=の=果て=お 君=の<NOM> [召し使われ
 て]ADVC なさるまじ=官職=お 下され]ADVC

主節で主格助詞 =no を用いることはない。したがって、次に挙げる (23) は (23a) の
 ように解釈するのが正しい。

- (23) それ=に=よって 諸人=の^{しよにん} 目=お 澄まいて これ=お 見ました。
 (005.07-08)
- a. [諸人=の<NOM>^{しよにん} 目=お 澄まいて]ADVC
- b. *[それ=に=よって 諸人=の<NOM>^{しよにん} [目=お 澄まいて]ADVC これ=お
 見ました]s
- c. *[[諸人=の]ADNP=^{しよにん}目=お 澄まいて]ADVC

5.3 対格

対格補語には基本的に =o を後接させる。次のように =o を欠く例は 5%にも満たない
 (発話文にしかない?)。

- (24) a. 馬=に 鞍<ACC> 置かせよ. 着背長<ACC> 取り出だせ. (043.08)
- b. 馬=の=足<ACC> 疲らかさせい. (262.24)

参考文献

- 影山 太郎 (1993) 『文法と語形成』, ひつじ書房
- 下地 理則 (2006) 「南琉球語伊良部方言」, 中山俊秀・江畑冬生 (編) 『文法を描くフィールドワークに
 基づく諸言語の文法スケッチ 1』, pp. 85-117, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- (2011) 「文法書を編纂する」, Patrick Heinrich & 下地理則 (編) 『琉球諸語記録保存の基礎』,
 pp. 1-27, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- Shimoji, Michinori. (2008) A grammar of Irabu, a southern Ryukyuan language. PhD Thesis.

湯沢 幸吉郎 (1929) 『室町時代言語の研究』, 大岡山書店 [復刻版 = 風間書房, 1970 年]

Grimshaw, Jane. (1990). *Argument structure*. MIT Press. [再版, 1992 年]

Leech, Geoffrey N., Margaret Deuchar, and Robert M. Hoogenraad. (1982). *English grammar for today: A new introduction*. London: Macmillan Press.

くろき くにひこ (甲南女子大学特任講師; 蛍池言語研究所あるじ)

E-mail: nihon5_no_ken9@yahoo.co.jp